

びわ湖で見られる鳥たち

びわ湖周辺では、たくさんの鳥が見られるね。水辺に暮らす鳥は水鳥と呼ばれ、外国からやってくる渡り鳥(★)も多いよ。



滋賀県で確認されている鳥は約270種類。そのうち水辺を利用している鳥は約140種類とされています。

マガモ★

秋から冬にかけてびわ湖にやってきます。オスのマガモはピカピカの緑色の頭をしています。メスのマガモは茶色っぽくて草むらなどにかくれやすい色をしています。ロシアや中国、北海道や東北地方からあたたかい場所をさがしてびわ湖にやってきます。



オシドリ★

春から夏の間は北海道や東北地方で過ごし、秋から冬になるとびわ湖にやってきます。ロシアや中国から渡ってくるオシドリもいます。オシドリは雑食性でなんでも食べます。木の実や水草、貝や虫、エビなどを食べています。



カワウ

黒くて大きな鳥です。一年中びわ湖や日本中の川にいます。水中にもぐって魚をとるのがとてもじょうずです。長い時間泳ぎながらがったくちばしで魚をとります。羽はほかの鳥に比べて水をはじきにくいので、エサをとった後に大きく羽を広げてかわかしている姿をよく見かけます。



オオバン★

真っ黒な体に白いおでこがある鳥です。カモのように泳ぎますが、くちばしはとがっていて、足にはカモのような水かきではなく、大きな「ひれ」のようなものがあります。40年ほど前は、冬にしか見ることができない渡り鳥でしたが、今は一年中日本の湖や川にいたるものと、北海道やロシア、中国からびわ湖へ来るものがあります。水草が大好物ですが、ときどき、小さな虫や貝も食べます。飛ぶときには水の上をバタバタ走ってから飛び立ちます。



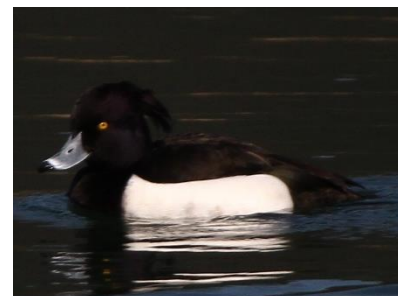
カイツブリ

カイツブリは「渡り」をしない鳥で一年中びわ湖にいます。「滋賀県の鳥」として有名です。「ピューツ！」と高い声で鳴くのが特徴です。泳ぐのがとてもじょうずで、水にもぐって小さな魚やエビ、水草を食べます。危険を感じるとすぐ水にもぐってしまいます。水草を集めて水に浮かぶふわふわの巣を作ります。親はひなを背中に乗せて泳ぐこともあります。昔はびわ湖の湖岸のどこにでもいましたが、最近は特に南湖で見かけなくなりました。

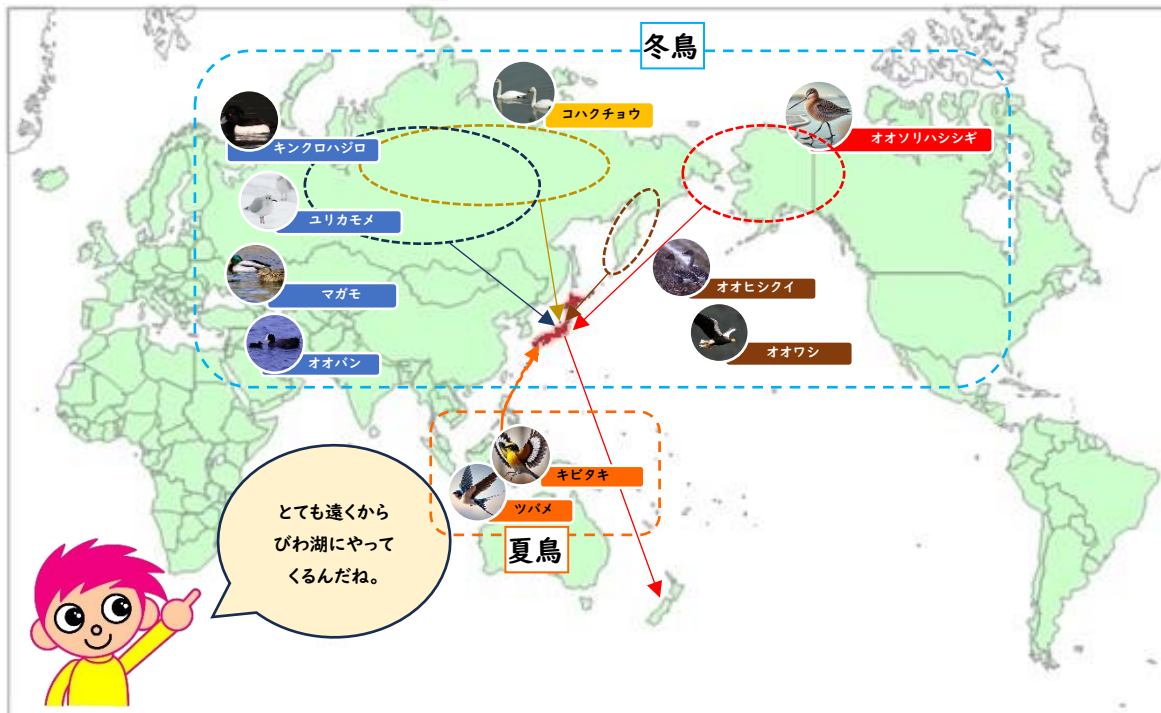


キンクロハジロ★

黒と白のきれいな体をしたカモの仲間です。オスは黒い体に白いおなか、メスは茶色っぽい色をしています。ちょんまげみたいに頭の後ろにのびたおしゃれな羽があります。夏はロシアや北海道などずすしいところへすごします。水にもぐるのがとくいで、長い時間もぐって水の中の貝や小さな虫、水草を食べます。よく見ると黒い顔に黄色い目が光っています。



渡り鳥はどこからやってくるの？



冬鳥と呼ばれている鳥は、冬にロシアや中国など北の寒い地域から秋から冬にかけてやってきます。反対にツバメなど夏鳥と呼ばれている鳥は、春から夏にかけてオーストラリアやインドネシアなど南からやってきます。

ユリカモメ★

白い体に赤いくちばしをもったカモメの仲間です。夏はロシアや北海道などずいぶん高いところで卵をうみ、子育てをします。魚やエビのほか、人が落としたパンなどを食べることがあります。冬のユリカモメは白い顔ですが、夏になると頭が黒っぽくなります。飛ぶのがとてもじょうずで、空中でぐるっと回ることできます。



オオワシ★

ロシアのカムチャツカ半島から毎年やってきます。滋賀県では1980年代から観察されるようになりました。とても大きな鳥で、体長は70~90cm。羽を広げると2m以上になります。頭や尾の部分は白い羽になっています。食べ物は魚のほかに、死んだ鳥やシカです。滋賀県では最大6羽のオオワシがいたことがありましたが、今では長浜の山本山に渡ってくる1羽のみとなりました。



オオヒシクイ★

寒くなると、ロシアのカムチャツカ半島から渡ってくる国の天然記念物に指定されている鳥です。草や水草を食べます。ヒシモという水草の、するどいとげのある、金づちでたたかないと割れないほどかたい種も丸のみして食べることから「ヒシクイ」と呼ばれます。羽を広げると1.7m、体重5kgという大きな体ですからたくさんエサを食べます。



コハクチョウ★

日本よりずっと北のシベリアで生まれます。冬になるとあたたかい、エサがたくさんある場所を求めて日本にやってきます。初めてびわ湖に来たのは1974年のことです。おもに水草を食べます。びわ湖の浅瀬でネジレモなどを好んで食べます。春になるとシベリアへ帰っていきます。



旅のちゅうで、ほんの数日間羽を休めていく鳥もいるんだね。

オオソリハシシギ★

シギ、チドリの仲間は多くが北半球で子育てをして、子育てが終わると赤道付近や、南半球に渡っていきます。オオソリハシシギはアラスカで子育てをして、その後ニュージーランドまで渡って冬を越します。最近の研究で1万5000kmをノンストップで9日間飛び続けている鳥がいることがわかりました。その間、睡眠や水はどうしているのか、まだまだわからないことがあるそうです。

